

清瀬市『夢空間』保存活用方針



令和7年3月

【目次】

※ 内容については、今後、詳細な検討を行う中で、変更する場合があります。

『夢空間』保存活用方針策定までの経緯

『夢空間』保存活用基本方針

『夢空間』の概要

整備事業コンセプト

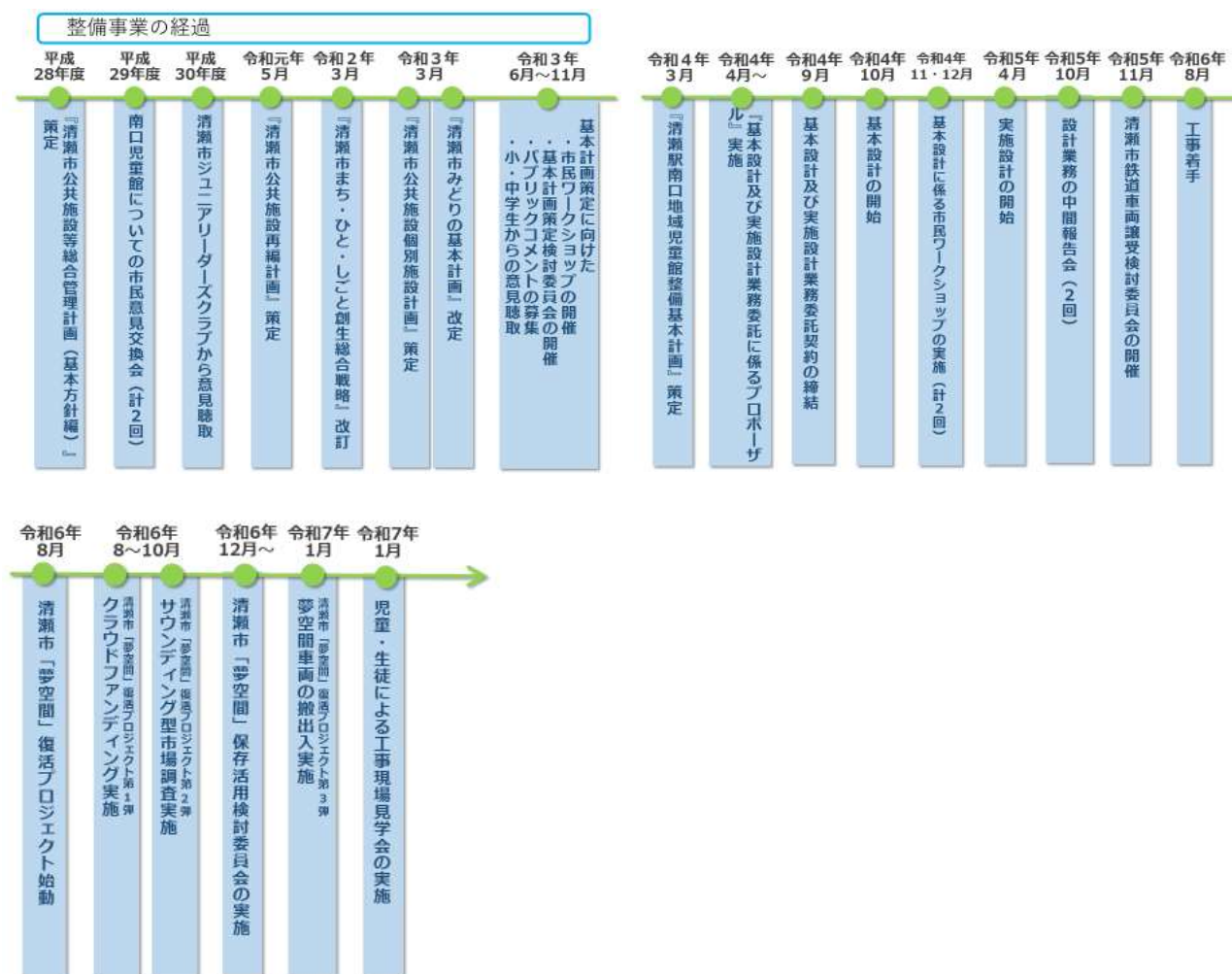
『夢空間』保存活用方針策定までの経緯

清瀬市は、清瀬市立中央公園（以下、「中央公園」）の整備とあわせて、児童館・図書館等の機能を含む複合施設の建設を進めるにあたり、令和4年3月に『清瀬駅南口地域児童館・中央図書館等複合施設及び中央公園整備基本計画』を策定、隈研吾建築都市設計事務所と基本設計及び実施設計業務委託契約を締結、設計業務を完了しました。令和6年8月より整備工事に着手し、令和7年1月、2両の車両を中央公園内に設置しました。

設計にあたって、本市では中央公園を子どもから高齢者まで、多世代が交流できる拠点にするためには、新たな賑わいの創出が必要と考え、市民ワークショップや中間報告会でのご意見を基に庁内で検討した結果、鉄道車両の設置を決定しました。設置する車両は、市民や学芸員、鉄道車両保存の有識者からなる「鉄道車両譲受検討委員会」の提言を経て、日本における豪華客車のパイオニアである『夢空間』車両（以下、『夢空間』という）を選定しました。

この方針は『夢空間』の保存・活用について、市民、学芸員、鉄道保存の専門家から成る「清瀬市夢空間保存活用検討委員会」からの提言を受け、本市が『夢空間』を適切に保存しながら、広く市民から親しまれ、愛される清瀬の新たなランドマークとして活用していくための基本的事項についての考え方などをまとめたものです。

【これまでの検討経緯】



『夢空間』保存活用基本方針

清瀬市は「夢空間」を文化財として適切に保存し、後世に引き継ぐとともに「にぎわい」の創出はもとよりシティプロモーションの促進やシビックプライドの醸成を実現するため「夢空間保存・活用方針」を策定します。

『夢空間』を清瀬市の文化財として保存します。

『夢空間』を後世に引き継いでまいります。

『夢空間』の保存にかかる活動を市民と車両を愛する方々の参画により実施します。

『夢空間』の活用は、保存のための費用を賄うことに主眼を置いて実施します。

『夢空間』を広く市内外に発信するための広報活動を継続的に実施します。

1 『夢空間』の保存について

『夢空間』を清瀬市の文化財として保存するため、郷土博物館において調査報告書を作成するとともに文化財指定を視野にいてまいります。

車両保存にかかる活動を行政だけではなく、市民と車両を愛する方々の参画により実施することで関係する人々同士の関係が生まれ、このことを新たな賑わい、シビックプライドの醸成やシティプロモーションの促進につなげてまいります。

- (1) 『夢空間』保存会の設立支援
- (2) 『夢空間』ファンクラブの創設・運営
- (3) 保存関連イベントの企画・開催

2 『夢空間』の活用について

『夢空間』を持続可能な形で末永く保存するため、修復や保存に係る費用の一部を賄うことに主眼を置いて、さまざまな活用を行います。

(1) 飲食のための活用

『夢空間』を車両本来の用途である「飲食ができる場」として活用します。活用にあたっては、保存と活用の両立を目指した手法を実施します。

(2) イベント開催

結婚式や写真撮影会などのイベントとしての活用を実施します。また、現役や保存鉄道車両とのコラボレーション、夢空間に関わりのあるエリアや自治体との連携など、さまざまな工夫を凝らしたイベントを企画し、継続的な来場者確保に努めます。

(3) 学校教育や生涯教育のための利用

子どもや児童・生徒を対象に、図書館や児童館などと協働したイベント開催、学校単位での見学会や職業体験の場として提供します。これらの活動は次世代が車両に対する興味・関心をいなくきっかけとなり、さらには学校教育における「キャリア教育の充実」とも関連づけることが期待されます。

また、生涯教育の一環としての場として活用することにも努めます。

(4) 商標考案、及び関連商品の企画・販売

車両が清瀬市にあることが分かる適切な名称ないし商標について、公募などを通じて定め、それらを市が適切に利用できるように権利確保を行い、清瀬市観光協会やさまざまな主体と連携して関連商品の企画・販売を行います。

3 情報発信とさまざまな主体との連携について

清瀬市に「夢空間」があることを広く市内外に繰り返しアピールすることにより、本市の認知度とブランド価値を高め、保存活動への理解を得るとともに、市内外からの来訪者・事業者などの誘致につながるものと考えています。今後、車両の修復過程を含めた保存活動や各種イベント、関連商品などの情報等を持続的に発信するとともに、その記録を保存します。

持続可能な車両保存を行うため、魅力あるイベント企画や保存に係る情報収集などのため、日本鉄道保存協会、鉄道保存関連施設、全国の博物館、鉄道事業者などと積極的に連携してまいります。

4 保存活用状況検証のための仕組みづくり

車両の保存や活用方法が目的に適ったものであるかどうかを検証し、また必要に応じて対応策を検討するために、委員会や定期的な会議などの仕組みづくりに努めます。

『夢空間』の概要

『夢空間』は、国鉄がJR東日本（東日本旅客鉄道株式会社）になって唯一新造された24系の客車です。1号車の食堂車「ダイニングカー」2号車のラウンジカー「クリスタルラウンジ・スプレモ」、3号車の寝台車「デラックススリーパー」の3両1組で構成されており、それぞれ緑、赤、青を基調とした鮮やかな外観をしています。

平成元年（1989）の「横浜博覧会」開催時に、桜木町駅前において、はじめて公開・展示され、平成3年（1991）には「北斗星トマムスキー」号として一般営業を開始、予約が困難ほどの人気を誇りましたが、残念ながら製造後20年程経った平成20年（2008）3月に老朽化を理由に営業運転を終了しました。

ラウンジカーとダイニングカーは平成21年（2009）年6月、デラックススリーパーは平成23年（2011）12月でそれぞれ廃車となりましたが『夢空間』は、後に豪華寝台列車として開発・製造された「カシオペア」や「TRAIN SUITE 四季島」などへ多大な影響を与えています。

その後、ラウンジカーとダイニングカーは、平成21年（2009）9月より埼玉県三郷市の「三井ショッピングパーク ららぽーと新三郷」に移設・展示され、施設の来場者に親しまれてきました。デラックススリーパーは平成23年（2011）年12月に江東区木場にあるレストラン「アタゴール」に移設され、レストランの一部として飲食の提供などをされ、保存活用されています。

（※参考：「鉄道ファン」誌、「鉄道ピクトリアル」誌、夢空間に関するブログ、ホームページ等より一部引用）

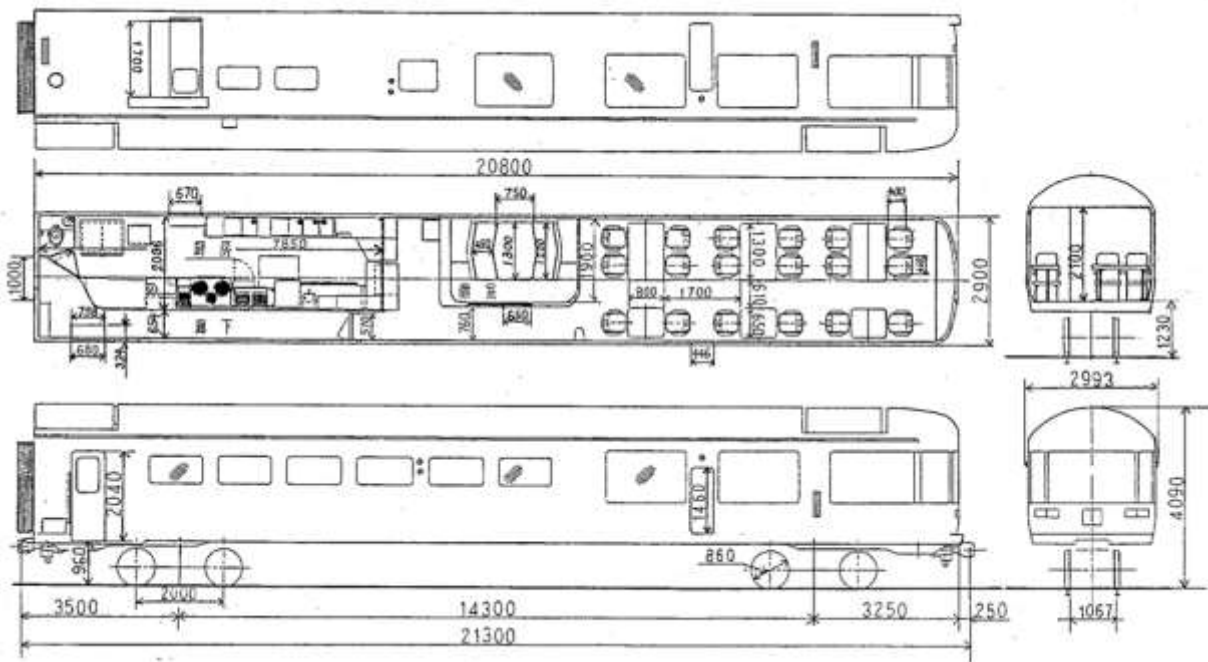


各車両の説明

①「ダイニングカー」オシ25 901

製造を東急車両、内装デザインを東急百貨店が担当。大きな展望窓が特徴で、中央部に4人用個室を設けている。編成最後尾にダイニングルームを配置していることから、関係ない人の通り抜けがなく、ゆったりとした空間の中で食事ができた。

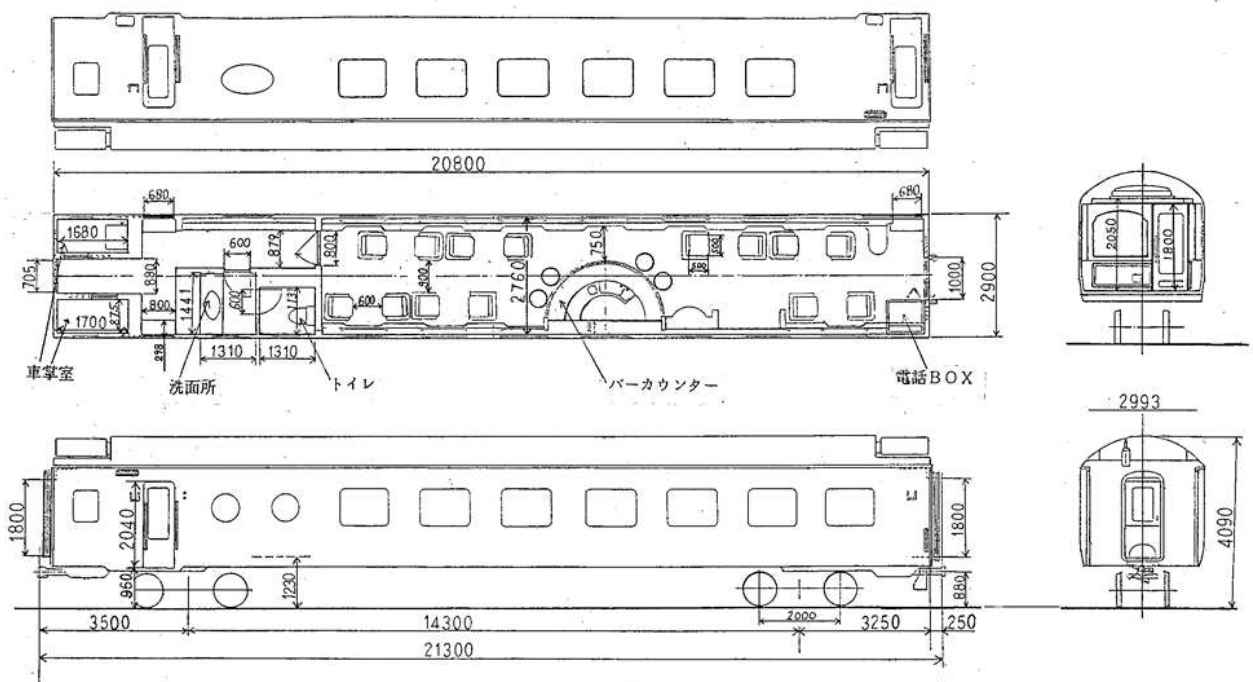




②「ラウンジカー」オハフ25 901

製造を富士重工業、内装デザインを松屋百貨店が担当。豪華な装飾、電動ピアノによる音楽が流れるなど、贅沢な時を演出した「クリスタルラウンジ・スプレモ」は、中央に配置されたバーカウンター、ゆったりとしたソファなど「オリエントエクスプレス」を彷彿させる。





まちに新しいストーリー

清瀬市の新たなランドマークである鉄道車両『夢空間』を設置した中央公園と児童館等複合施設を利用する方だれもが、楽しめるスペースとなっています。

子どもからお年寄りまで、すべての市民が参画できる“地域に愛され、地域とともに成長する施設”の実現に向けて取り組みます。



『夢空間』は、中央公園の中央部にあるオープンスペース内に設置しています。風雨や紫外線から車体を守り、維持管理を最適化するため、ホーム及び屋根を設置しました。